



私たちの労働を振り返り 堂々と要求していこう

私たち労働者は、会社存続と自らの生活を守るため懸命に働き、コロナ禍を乗り越えてきました。

懸命な労働が、どのような結果を生み出したのでしょうか？その対価はどのようなのでしょうか？

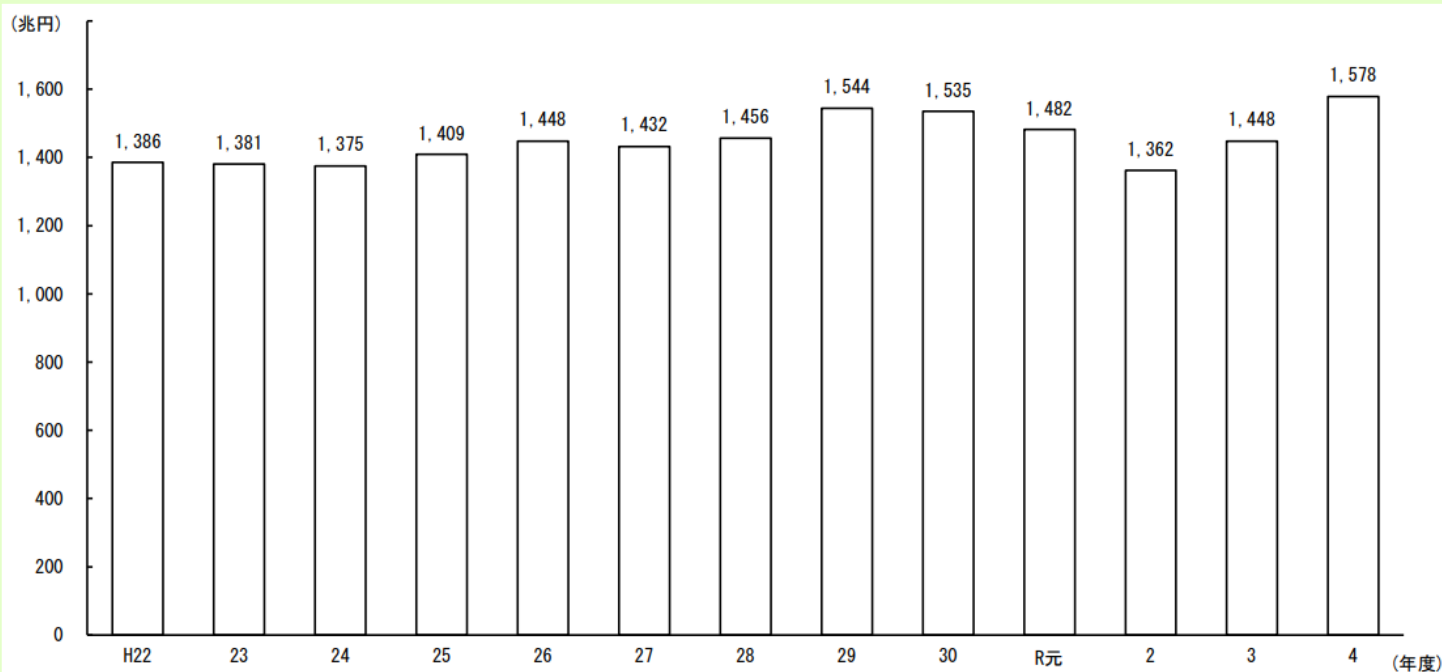
9月1日に財務省が公表した「法人企業統計調査」の結果を見てみましょう。

なお、当社のみの数値ではありませんのでご注意ください

下のグラフは、商品やサービスの提供など本業によって得た収益である「売上高」を表しています。

コロナ禍で減少が見られるものの、2022年度の時点ですでに過去最高(グラフの中で)となっています。

私たち労働者の、懸命な労働の成果と言えるでしょう。



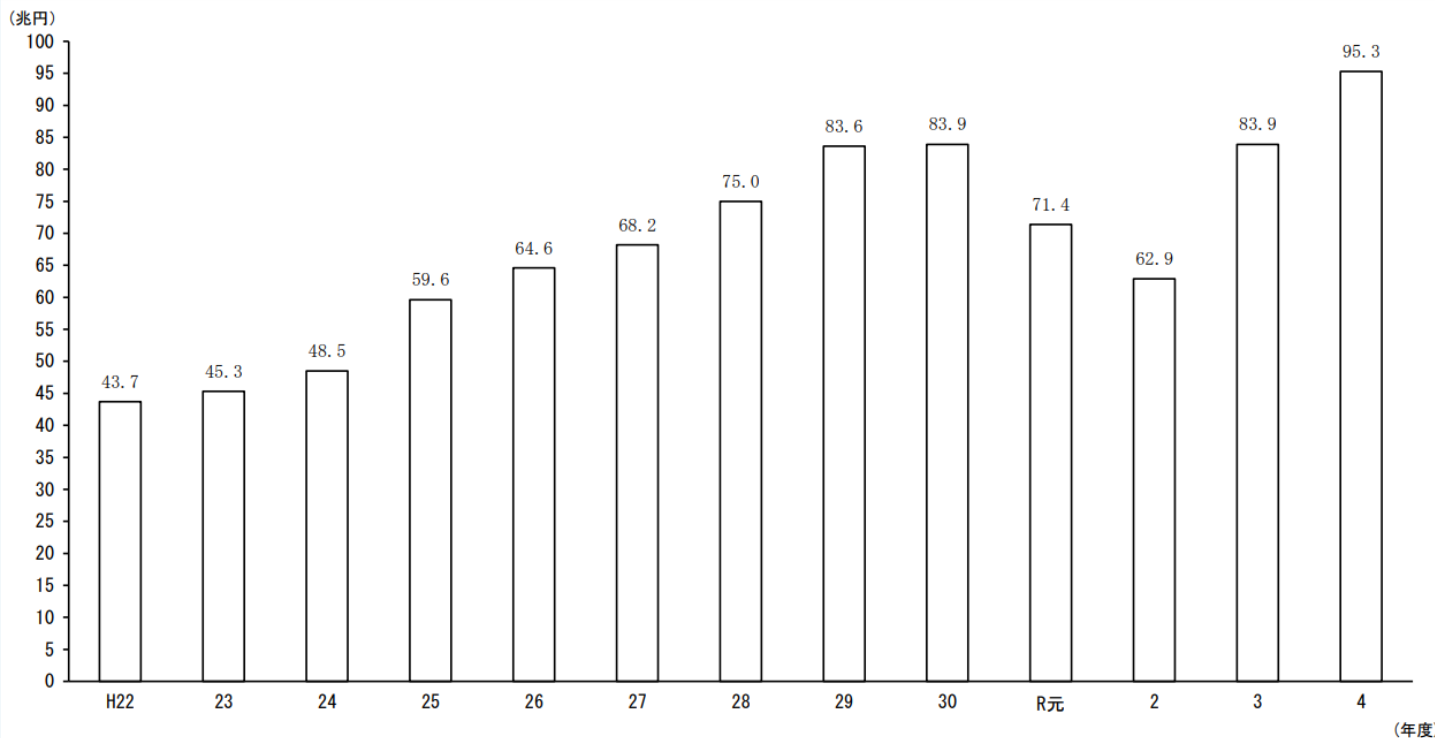
次のページでは、「経常利益」「付加価値」も見ていきます。スペースの関係でここに書きますが、付加価値まで見ていただくと、堂々と満額回答を要求する気になって頂けると思います。

声を挙げてたたかうのは、社友会などではなく、東労組です。

東労組に加入しなければ、たたかえず、自らの生活は護れないのです。



続いて、企業が通常行っている業務の中で得た利益である「**経常利益**」です。
コロナ禍前の2018年度を、**遥かに超える利益**を上げています。



次に、企業が生み出した製品やサービスの価値を表す「**付加価値**」を見てみましょう。
構成比のうち、人件費の部分が「**労働分配率**」を表しています。
これは、**生み出した付加価値が働く人にどれだけ分配されたかを示すもの**です。

**売上高・経常利益・付加価値とも、コロナ禍を乗り越え、増加しているのに
私たちへの分配は減少しているのです。**

頑張り結果を出しても賃金が上がりにくい今、労働者の向き合い方が問われています。

第7表 付加価値の構成

(単位：億円、%)

区分	2018 (平成30)		2019 (令和元)		2020 (令和2)		2021 (令和3)		2022 (令和4)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
付加価値	3,144,822	100.0	2,946,721	100.0	2,733,287	100.0	3,000,025	100.0	3,179,136	100.0
人件費	2,086,088	66.3	2,022,743	68.6	1,954,072	71.5	2,065,953	68.9	2,144,447	67.5
支払利息等	64,966	2.1	56,291	1.9	60,123	2.2	69,229	2.3	71,664	2.3
動産・不動産賃借料	273,143	8.7	266,095	9.1	261,616	9.6	289,542	9.6	293,464	9.2
租税公課	108,295	3.4	106,257	3.6	101,279	3.7	102,375	3.4	108,576	3.4
営業純益	612,329	19.5	495,336	16.8	356,197	13.0	472,927	15.8	560,986	17.6
付加価値率	20.5		19.9		20.1		20.7		20.1	
労働生産性 (万円)	730		715		688		722		738	

いちばん下の「**労働生産性**」とは、労働力や労働時間に対して、どれだけ効率的に成果を生み出せたかを表しています。**労働者の奮闘もあり生み出した成果**です。

生産性が向上しているからには、本来、私たちの給与は増額されなければなりません。
役員報酬だけ急激に上がるようでは、不公平感を生み、人材確保も難しくなるでしょう。